

庭木に適した富山ゆかりのサクラ

日本樹木医学会富山県支部

樹木医 西村正史

庭木に適したサクラを本誌 181 号で紹介しました。本県ゆかりのサクラでも庭木に適した品種が見つられていますので、紹介します。

なお、栽培時の注意点は本誌 181 号を参照してください。

1 コシノフユザクラ

晩秋と春の2回、開花のピークがある二季咲き性のサクラで、県内ではかなり古い時代から栽培されていたようです(写真1)。2006~2007(H18~19)年にとやまさくら守の会と富山県中央植物園との共同調査で新品種であることがわかりました。系統的にはマメザクラとヤマザクラが関係して誕生しました。県中東部の20箇所で栽培が確認されています。

花は一重咲きで、花弁が5枚の花と4枚の花が混ざりあうという特徴があります。また、花弁が散りにくいため、1本の枝に満開状態の白い花と咲き進んで色づいた古いピンク色の花が混ざる特徴もあります(写真2)。富山県中央植物園で販売されています。

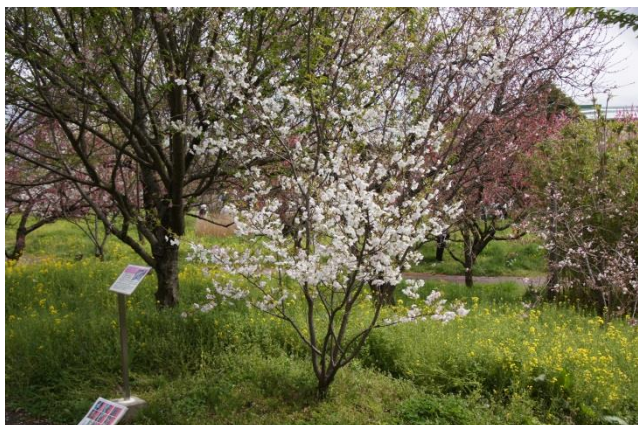


写真1 コシノフユザクラ

2 コシノフクカサネ

このサクラもとやまさくら守の会と富山県中央植物園との共同調査で2010(H22)年に新品種であることがわかりました(写真3)。入善町上野の浄蓮寺、入善町舟見の念興寺、民家2箇所で確認されています。系統的にはマメザクラとチョウジザクラが関係して誕生しました。富山さくらの名所70選の1つ、「浄蓮寺・念興寺の桜」として指定されています。

この品種も二季咲き性で晩秋と春に開花します。特に晩秋の開花が見事です。花は一重から半八重咲きが混在し、花付きがよくて散りにくく、花の色は、咲き始めは白色が強く、満開後は紅色となります(写真4)。枝はやや垂れる特徴があります。

昔、親孝行な息子が桜を見たいと言った病気の父親のために、あちこちを探し、やっと探しあてた桜であることから「孝行桜」と言い伝えられています。

(写真: 富山県中央植物園にて H28. 4. 6 撮影)



写真3 コシノフクカサネ



写真2 コシノフユザクラの花



写真4 コシノフクカサネの花